

日本昆虫学会第85回大会プログラム

2025年9月13~15日

厚木市：東京農業大学農学部（厚木キャンパス）



9月13日（土）

8:00-	受付（講義棟R階）		
9:30-12:00	公開シンポジウム（トリニティーホール）		
13:00-15:00	一般講演（口頭発表）		
	A会場（1301）	B会場（1302）	C会場（1306）
	分類	形態・組織・発生、生態・行動、生活史、多様性・保全・環境、害虫管理・生物的防除	生態・行動、生活史、多様性・保全・環境
15:15-16:30	論文賞・若手奨励賞及びあきつ賞授賞式、若手奨励賞受賞講演（トリニティーホール）		
17:00-19:00	懇親会（学生会館1階）		

9月14日（日）

9:00-12:00	一般講演（口頭発表）		
	A会場（1301）	B会場（1302）	C会場（1306）
	分類、系統・生物地理、進化・遺伝・種分化	分類、形態・組織・発生、進化・遺伝・種分化 英語口頭発表	進化・遺伝・種分化、生態・行動、生活史
12:00-14:00	ポスター発表（ホワイエ） コアタイム 奇数12:00-13:00、偶数13:00-14:00		
14:00-14:30	小中高生ポスター・昆虫じまん授賞式（ホワイエ）		
14:45-16:45	公募シンポジウム（トリニティーホール）		
17:00-19:00	小集会（ワークショップ）		
	A会場（1301）	B会場（1302）	C会場（1306）
	第26回昆虫の季節適応談話会	日本半翅類学会小集会	昆虫分類学若手懇談会

9月15日（月）

9:00-12:00	一般講演（口頭発表）		
	A会場（1301）	B会場（1302）	C会場（1306）
	分類、系統・生物地理、生態・行動、多様性・保全・環境	分類、形態・組織・発生、系統・生物地理、進化・遺伝・種分化、多様性・保全・環境	生態・行動、多様性・保全・環境
13:00-15:00	一般講演（口頭発表）		
	A会場（1301）	B会場（1302）	C会場（1306）
	分類、系統・生物地理、進化・遺伝・種分化	形態・組織・発生、生態・行動、生活史、多様性・保全・環境	
15:15-16:45	ポスター発表・英語口頭発表授賞式、代議員総会、理事会		
17:00-19:00	小集会（ワークショップ）		
	A会場（1301）	B会場（1302）	C会場（1306）
	昆虫の家族をめぐる進化生態学	小笠原マイナー昆虫若手の会	アザミウマの食生活と性生活 （第9回アザミウマ研究会）

大会会場へのアクセスと会場配置図

一般講演、シンポジウム、授賞式、代議員総会、懇親会

〒243-0034 神奈川県厚木市船子 1737 東京農業大学（厚木キャンパス）



東京農業大学行バス停の位置

行先	東京農業大学行	行先	本厚木駅南口行
系統番号	厚109	系統番号	厚109
バス停	本厚木駅南口	バス停	東京農業大学
時	土曜・休日	時	土曜・休日
7	15	7	40
8	00 40	8	15
9	15 35 55	9	40
10	15 35	10	20
11	15 55	11	00 40
12	35	12	20
13	15 55	13	00 40
14	35	14	20
15	15 55	15	00 40
16	35	16	20
17	35 55	17	20 40
18	35	18	20
19	25	19	10 50
20	35	20	20

バス時刻表

*小田急線 本厚木駅から

- バス：本厚木駅南口の 14 番乗り場から約 15 分

現在は南口を出て正面にバス停への歩行者デッキ（エスカレーター・階段）があります。

便数が少ない土曜・休日ダイヤでの運行です。ご注意ください。

- タクシー：本厚木駅北口から約 10 分

タクシー乗り場は北口を出て正面です。

「東京農大のバスロータリーまで」とドライバーにお伝え下さい。

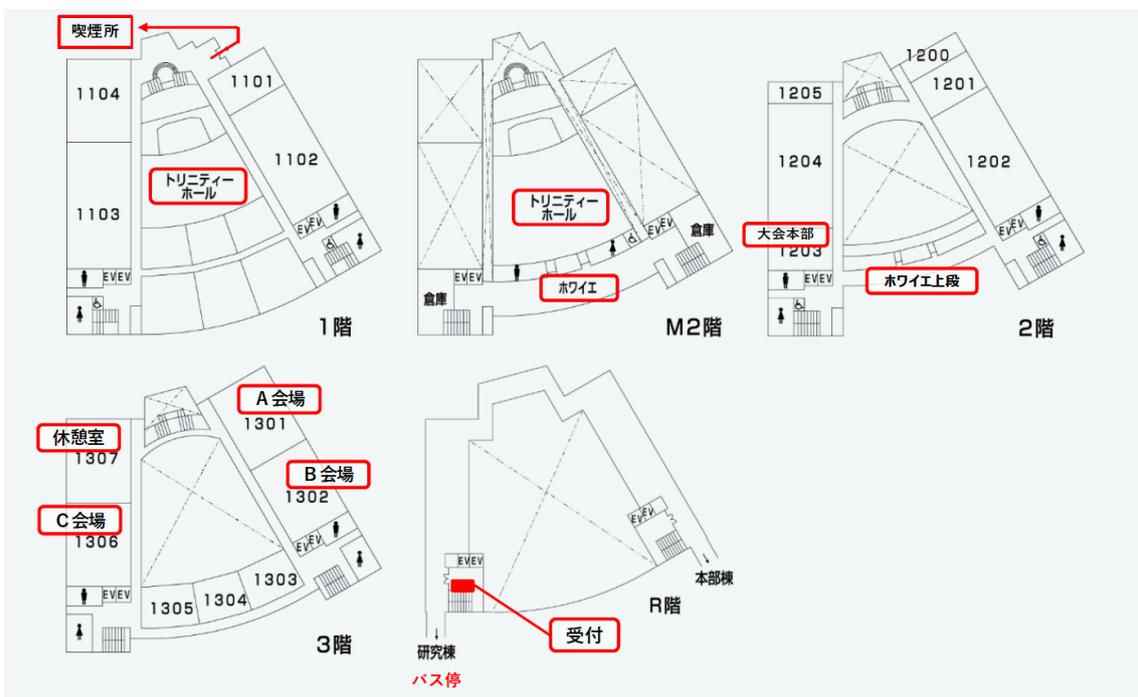
- 徒歩：約 30 分

*自家用車でのご来場はできません。

キャンパスマップ（バス停、大会会場、懇親会会場）



大会会場（講義棟）マップ（A-C会場、トリニティーホール、ホワイエ）



- A-C会場（3階）… 一般講演（口頭発表）、英語口頭発表、小集会
- トリニティーホール（1階、M2階）… シンポジウム、授賞式、受賞講演、代議員総会
- ホワイエ（M2階）… 一般講演（ポスター発表）、昆虫じまん
- ホワイエ上段（2階）… 小中高生ポスター発表

大会事務局からのお知らせ

受付：講義棟 R 階出入り口にあります。各日 8:00 から開始します。**持参頂いた名札をご提示の上、名札ケースをお受け取り下さい。**当日参加も大会ウェブサイトから参加登録して下さい（参加費の現金でのお支払いは受け付けておりません）。なお、大会 1 日目 9 月 13 日（土）の公開シンポジウム、2 日目 9 月 14 日（日）の小中高生ポスター発表および昆虫じまんへの参加は無料です。

名札：**各自でプリントアウトして持参頂き、**会場では必ずお付け下さい。名札を忘れた場合は受付へ申し出て頂き、白紙の名札を受け取って記入して下さい。

要旨集：PDF 版のみ作成し、冊子体は配布しません。必要な場合は各自でプリントアウトして持参して下さい。PDF 版は大会ウェブサイトで公開します。

代議員総会：大会 3 日目 9 月 15 日（月）15:15 から 16:30 までトリニティーホールで開催（終了時間は変更の可能性あり）。会員の方は傍聴することができます。事前申込がお済みでない方は会場入口（M2 階）で受付を行い、入場して下さい。なお、代議員総会に先立って、ポスター発表賞および英語口頭発表賞の授賞式を開催します。

公開シンポジウム：大会 1 日目 9 月 13 日（土）9:30 からトリニティーホールで開催。

公募シンポジウム：大会 2 日目 9 月 14 日（日）14:45 からトリニティーホールで開催。

懇親会：大会 1 日目 9 月 13 日（土）17:00 から学生会館 1 階で開催。**懇親会の終了にあわせて、学生会館前から本厚木駅までの送迎バス（無料）が出ます。**

一般講演（口頭発表）：詳しくは「一般講演（口頭発表）におけるプレゼンテーション」をご覧ください。

一般講演（ポスター発表）：大会 2 日目 9 月 14 日（日）にホワイエで開催。奇数番号は 12:00～13:00 を、偶数番号は 13:00～14:00 を発表のコアタイムとします。発表者はこれより前に掲示を終え、コアタイムはポスター前で対応して下さい。優れたポスター発表にはポスター発表賞が授与されます。授賞式は大会 3 日目 9 月 15 日（月）15:15 から、代議員総会に先立って行います。

ポスターの掲示は大会 2 日目 9 月 14 日（日）8:00 から可能です。自身のポスター番号の表示のある壁面・ガラス面に掲示して下さい。掲示の際は、ポスター番号表示の下にポスターの左上の角がくるように位置を調整し、ポスター番号表示の脇にある両面テープで貼って下さい。ポスターの撤収は同日の 17:00 までをお願いします。

英語口頭発表：英語口頭発表は大会 2 日目 9 月 14 日（日） 11:15 から B 会場で開催。発表時間・方法は一般講演（口頭発表）と同じです。ただし、座長は大会運営側で準備します。優れた英語口頭発表には英語口頭発表賞が授与されます。授賞式は大会 3 日目 9 月 15 日（月） 15:15 から、代議員総会に先立って行います。

小集会：大会 2 日目 9 月 14 日（日）と 3 日目 9 月 15 日（月）の 17:00 から小集会を開催。開催時間は最大で 2 時間です。終了時間（19:00）を守って下さい。すべての会場に液晶プロジェクターが装備されています。終了後は大会スタッフが操作パネルを終了させますので、世話人はすみやかに大会本部に終了した旨をお伝え下さい。

小中高生ポスター発表：大会 2 日目 9 月 14 日（日）にホワイエ上段で開催。12:30～13:30 を発表のコアタイムとします。発表者はこれより前に掲示を終え、コアタイムはポスター前で対応して下さい。発表者には参加賞の他、優れたポスター発表に対しては優秀賞が贈られます。コアタイム終了後、14:00 からホワイエで授賞式を行います。

ポスターの掲示は大会 2 日目 9 月 14 日（日） 8:00 から可能です。自身のポスター番号の表示のある壁面に掲示して下さい。掲示の際は、ポスター番号表示の下にポスターの左上の角がくるように位置を調整し、ポスター番号表示の脇にある両面テープで貼って下さい。ポスターの撤収は同日の 17:00 までをお願いします。

昆虫じまん：ホワイエで開催。展示用のテーブルに大会 1 日目 9 月 13 日（土） 8:00 から展示可能です（2 日目だけの展示でも結構です）。展示説明のコアタイムは大会 2 日目 9 月 14 日（日） 12:30～13:30 です。コアタイムは展示の前で対応して下さい。展示者には参加賞が贈られます。

撮影：大会における発表スライド・ポスターの写真・動画の撮影は原則禁止です。発表者の許可を得た場合に限り認められます。

喫煙：会場のある講義棟 1 階の出入り口から屋外に出て左手に喫煙所があります。

休憩所：講義棟 3 階 1307 教室（C 会場隣り）です。M2 階のホワイエもご利用頂けます。

駐車場：大学の駐車場はご利用頂けません。会場へは公共交通機関か徒歩でお越し下さい。

昼食：大会期間中は学内の食堂・売店は閉まっており、弁当の販売もありません。大学周辺には飲食店はありませので、会場にお越しになる前に昼食をお求め下さい。休憩室に電子レンジとお湯の入ったポットを用意します。

会期中の緊急連絡先： konchugakkai85@gmail.com

一般講演（口頭発表）におけるプレゼンテーション

講演時間：口頭発表は15分間（発表12分、質疑3分）です。時間厳守をお願いします。予鈴10分、本鈴12分、終鈴15分で経過時間をお知らせします。講演の取り消しがあった場合には、その時間帯を空き時間とし、繰り上げは行いません。当日の講演取り下げは、会期中の緊急連絡先（konchugakkai85@gmail.com）をお願いします。

パソコンの準備：各自でノート型パソコンおよび電源ケーブルをご持参下さい（Windowsを推奨）。プロジェクターへの接続はHDMIケーブルのみです。変換ケーブルが必要な方は忘れずにお持ち下さい。パソコンの不具合に備え、必ずスライドのPDFデータをUSBメモリに保存してお持ち下さい。ファイルサイズは極力小さくして下さい。個人でパソコンをご準備頂けない場合、お近くの方で融通しあうなどして下さい。大会運営側はデータ消去、USBメモリを介したウイルス感染等の責任は負いません。

試写：必ず事前に、空き時間等を利用して発表される会場にて試写を行い、動作を確認して下さい。休憩室でも試写ができます。混雑緩和のため動作確認以外は行わないで下さい。

座長：発表後は次の発表の座長をお願いします。ただし、午前と午後の最初の発表の座長は大会運営側で準備します。

発表の手順：

- ① 発表者は、前の発表者の講演中に「次演者席」に着席します。
- ② 前の発表者の質疑の間に次の発表者のパソコンへの切り替え作業を行います（質疑中にスライドの投影はできません）。次の発表者はパソコンを接続する際、あらかじめ投影予定のファイルを開いておいて下さい（スライドショーはパソコンの切り替え後に開始して下さい）。会場係の責任以外でパソコンの画面切り替えに時間がとられた場合であっても、その分の時間延長は行いません。
- ③ 配線が複雑になるので、講演準備および講演中は電源に接続しないで下さい。どうしてもバッテリーに不安のある方は会場係にお申し出下さい。

学会賞授賞式および受賞講演

9月13日（土）15：15～16：30 トリニティーホール

2025年度論文賞（表彰のみで、受賞講演はありません）

受賞論文：Tatsuki Matoba, Yoshitaka Kamimura, Kazunori Yoshizawa (2024)
Traumatic copulation and counterpart female traits are widespread in fritillary butterflies (Lepidoptera: Nymphalidae: Argynnini). Vol. 27(2) ENS 12570.

受賞論文：Kôichi Arimoto, Junichi Yukawa, Masako Yafuso, Ayako Sasaki, Zhi-Hui Su (2024) New genus and two new species of Cecidomyiidi (Diptera: Cecidomyiidae) inhabiting the fig wall of *Ficus subpisocarpa* and *Ficus caulocarpa* (Moraceae) in Japan and Taiwan. Vol. 27(3) ENS 12583.

2024年度若手奨励賞（表彰および受賞講演）

中濱 直之 会員（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所）
「絶滅危惧昆虫の保全に向けた生態学及び遺伝学的研究」

2025年度若手奨励賞（表彰および受賞講演）

渡部 晃平 会員（石川県ふれあい昆虫館）
「ゲンゴロウ科およびその他の水生・半水生昆虫を中心とした分類学・生態学および保全生物学的研究」

2025年度あきつ賞 受賞対象なし

各種会議の案内

東京農業大学厚木キャンパス 講義棟

9月12日（金）（大会前日）

開催希望のお申し出のあった委員会委員長に大会事務局から個別にお知らせしております。

9月15日（月）

15：15～16：30 代議員総会（トリニティーホール）

16：30～16：45 理事会（トリニティーホール）代議員総会に引き続き開催。

S1：公開シンポジウム

小笠原昆虫研究への招待―自然史研究と保全のフロンティア

9月13日（土）9：30～12：00（トリニティーホール）

オーガナイザー：岸本 年郎（ふじのくに地球環境史ミュージアム）・山本 捺由他（環境省小笠原自然保護官事務所）・嶋本 習介（相模原市立博物館）

企画趣旨

大陸と隔絶された海洋島では、生態学や進化学を含む自然史研究上興味深い固有の生態系が成立することが一般に知られている。小笠原諸島は日本における代表的な海洋島であり、固有種を多く含む独自の生態系が成立していることから、様々な自然史研究の舞台となってきた。しかし、多様性の高い分類群である昆虫では、小笠原諸島における種多様性自体の解明すら完全ではなく、自然史研究上重要な研究テーマがまだまだ眠っていると考えられる。他方で、小笠原諸島はグリーンアノールに代表される侵略的な外来生物の影響を強く受けてきた地域でもある。一部の昆虫群が絶滅の危機に瀕しているなど、昆虫の保全に向けた研究が必要な状況にある。小笠原諸島における昆虫の自然史を解明し保全につなげることは急務であり、その課題解決のため、多くの昆虫研究者が小笠原諸島を舞台にした研究に参画することが重要である。

今回のシンポジウムではまず、小笠原諸島の生態系の重要性と現在行われている保全事業についてレビューする。次に、小笠原諸島における昆虫保全ならびに昆虫研究について、それぞれ二名の演者にご講演いただく。そのことを通じ、小笠原諸島における昆虫研究の魅力や重要性、今後期待されることについて議論するとともに、小笠原諸島を舞台とした昆虫研究への、研究者の参画とゆるやかな昆虫研究ネットワークづくりの契機としたい。

講演

- S101 山本 捺由他（環境省小笠原自然保護官事務所）：最後の秘境を守るには―小笠原諸島の昆虫の価値と保全の現在地
- S102 加賀 芳恵（小笠原自然文化研究所）：島民昆虫記～絶海の孤島に移住して～
- S103 矢後 勝也（東京大学総合研究博物館）：小笠原固有チョウ類の危機的状況とその保全活動―オガサワラシジミの哀史を中心に―
- S104 相馬 純（弘前大学白神自然環境研究センター）：小笠原諸島の固有カメムシ：多様な生態的特性がもたらす保全研究と種分化研究への有用性
- S105 大島 一正（京都府大・院生命・昆虫情報、京都府大・新自然史セ、京都府立植物園）・川北 篤（東大・理・植物園）・広渡 俊哉（九大院・農・昆虫）、屋宜 禎央（九大院・農・昆虫 DX）：「固有種」という枠を超えた小笠原諸島固有生物の進化的特異性

S2：公募シンポジウム

時を生きる昆虫たちの巧妙な戦略

9月14日（日）14：45～16：45（トリニティーホール）

オーガナイザー：松田 直樹（京都大）・後藤 慎介（大阪公立大）・田中 一裕（宮城学院女子大）

企画趣旨

地球上の生命は、絶えず変動する環境の中で営まれている。不規則な環境変化がある一方で、潮汐周期（12.4時間）、日周期（24時間）、半月周期（14.7日）、月周期（29.5日）、そして年周期（365日）といった、地球物理学的なメカニズムが生み出す規則的な変動も存在する。このような周期的な環境変化は、生物の生存と繁殖に大きな影響を与えており、生物は進化の過程で周期的な環境変化を予測するメカニズムや戦略を獲得してきた。例えば、餌の獲得、捕食者からの回避、繁殖活動のタイミングなどが挙げられ、生命活動のあらゆる側面に「時」の戦略が深く関わっている。

本シンポジウムでは、昆虫が示す多岐にわたる周期的な現象を紹介するとともに、その根底にある巧妙なメカニズムや生物学的意義について、最新の研究成果を交えながら深く掘り下げる。生態学的な視点から分子生物学的なアプローチまで、幅広い分野で活躍する演者が、それぞれの最先端の研究を紹介する。本シンポジウムを通して、昆虫たちが織りなす「時」をめぐる精緻な戦略を、参加者と共有し、今後の昆虫科学の発展に繋がる新たな視点を提供したい。

講演

S201 吉村 真由美（森林総合研究所）：季節を知る：カワゲラの生活史

S202 佐倉 緑（神戸大・院理）：時刻から方向を知る：昆虫の偏光コンパス

S203 左倉 和喜（基礎生物学研究所・進化発生）：潮汐を知る：マングローブスズメの概潮汐時計

S204 渡 康彦（芦屋大・臨床教育）・田中 一裕（宮城学院女子大・一般教育）：地中で1日を知る：タマネギバエの羽化リズム

口頭発表 大会1日目 9月13日(土)

	A会場	B会場	C会場
13:00	A101 河川伏流水から発見されたコマルガムシ属幼虫 ○荻島 悠介 ¹ ・川村 康平 ² (北九州市立自然史・歴史博物館 ¹ ・名古屋大学 ²)	B101 多様な外来社会性昆虫に対する早期発見・防除システムの高度化 ○坂本 洋典 ¹ ・坂本 佳子 ¹ ・高井 嘉樹 ¹ ・神宮 周作 ² ・内堀 隼人 ³ ・中嶋 信美 ¹ ・五箇 公一 ¹ (国環研 ¹ ・対馬市 ² ・東海理化 ³)	C101 過寄生となったナガカメネジレバネの成長をどう評価するか ○中瀬 悠太 ¹ ・菅藤 隼人 ² (京都芸術大学 ¹ ・北海道大学 ²)
13:15	A102 日本産ナガツツハムシ属 <i>Smaragdina</i> (コウチュウ目:ハムシ科) の分類学的再検討 安藤 徒樹 (北大院・昆虫体系)	B102 アルゼンチンアリの女王アリと働きアリの間の薬剤感受性の差異 ○高井 嘉樹・坂本 洋典・五箇 公一 (国立環境研究所)	C102 コガタズメバチに寄生するネジレバネの化性 牧野 俊一 (森林総研)
13:30	A103 日本産 <i>Macrocyphalus</i> (甲虫目:ゾウムシ科:キクイムシ亜科) の分類学的再検討 ○三木 巴月 ¹ ・山田 量崇 ^{2,3} (兵庫県大院・環境人間 ¹ ・兵庫県大 ² ・兵庫県博 ³)	B103 国内外来種リュウキュウツツヤハマムシの東京都内陸部への分布拡大 岸本 圭子 (龍谷大学・理工)	C103 コガタズメバチに寄生するネジレバネの繁殖生態 ○田中 愛斗 ¹ ・工藤 起来 ^{1,2} (新潟大・院・自 ¹ ・新潟大・教 ²)
13:45	A104 木生シダおよびヤシ類の落葉を利用する日本産キクイゾウムシ亜科 (コウチュウ目:ゾウムシ科) の多様性 ○井上 修吾 ¹ ・丸山 宗利 ² (九大院・生資環 ¹ ・九大博 ²)	B104 ダニ媒介感染症に対する環境科学的リスク対策研究 五箇 公一 (国立環境研究所)	C104 複数の寄主記憶と無報酬経験が寄生蜂の寄主探索に及ぼす影響 大野 葵 ¹ ・河井 莉唯也 ¹ ・西矢 芳昭 ¹ ・○向井 歩 ^{1,2} (摂南大・理工 ¹ ・大阪大・院理 ²)
14:00	A105 東京都産オチバゾウムシ属 (コウチュウ目ゾウムシ科) の分類学的研究 ○柳原 健人 ¹ ・吉武 啓 ² (東京農大/昆虫 ¹ ・つくば市 ²)	B105 深層学習を用いた高病原性鳥インフルエンザ媒介昆虫の画像認識 ○紙谷 聡志 ¹ ・上野 弘人 ¹ ・田中 宏明 ¹ ・館 卓司 ¹ ・藤田 龍介 (九州大学)	C105 クモヒメバチ (<i>Zatyota</i> sp.) の社会性クモ攻略法 松本 吏樹郎 (大阪市立自然史博物館)
14:15	A106 日本国内最古のミツモンヒゲナガゾウムシの標本とその由来 今田 舜介 (滋賀県立琵琶湖博物館)	B106 休耕田ビオトープと冬期湛水田における水生昆虫類の繁殖・避難場所としての役割 ○渡辺 黎也 ^{1,2} ・大庭 伸也 ³ ・田和 康太 ⁴ ・佐川 志朗 ¹ (兵庫県立大 ¹ ・倉敷芸術科学大 ² ・長崎大 ³ ・国環研 ⁴)	C106 ヒメジミの卵寄生蜂の生態学的研究 - 種構成と季節消長について - ○石谷 正宇 ¹ ・周藤 宙 ² ・坂巻 祥孝 ³ (島根大学非常勤講師 ¹ ・東京農業大学 ² ・鹿児島大学 ³)
14:30	A107 日本産アオハナムグリ属 <i>Gametis</i> の分類学的研究 ○瀬島 勇飛 ¹ ・吉田 貴大 ² (東京都立大学・動物系統分類学研究室 ¹ ・愛媛大学ミュージアム ²)	B107 福島県におけるタガメの生息状況および繁殖生態 ○三田村 敏正 ¹ ・大庭 伸也 ² (福島大学/長崎大学 ¹ ・長崎大学 ²)	C107 逸縁なアリ随伴性シジミチョウ種に寄生する極めて近縁なコマユバチ科の未記載種と日本未記録種 ○小林 ゆい ¹ ・前藤 薫 ¹ ・藤江 隼平 ² ・大島 一正 ^{3,4,5} (神戸大院・農 ¹ ・大阪自然史博物館 ² ・京都府大・院生命環境 ³ ・京都府大・新自然史セ ⁴ ・京都府立植物園 ⁵)
14:45	A108 日本産ヒサゴゴミシシダマシ属の分子系統解析 ○花井 真希人 ¹ ・丸山 宗利 ² ・安藤 清志 ³ (九大院・生資環・昆虫 ¹ ・九大博 ² ・愛媛大・農・昆虫 ³)	B108 タガメにおけるオスの卵保護とメスの追加・破壊産卵 ○大庭 伸也 ¹ ・林田 大毅 ¹ ・原 優梨亜 ¹ ・一柳 英隆 ² (長崎大学 ¹ ・熊本県立大/ (一社) 球磨川INP ²)	

口頭発表 大会2日目 9月14日(日)

	A会場	B会場	C会場
9:00	A201 タイにおけるメツブテントウ族(コウチュウ目: テントウムシ科)の高い種多様性と系統関係 ○関 峻大 ¹ ・VORAPHAB Itsarapong ² ・HASIN Sasitorn ³ ・丸山 宗利 ⁴ (九州大学・昆虫学研究室 ¹ ・FPCR Office, DNP ² ・VRU ³ ・九州大学総合研究博物館 ⁴)	B201 奄美大島と沖縄島に侵入したソテツシロカイガラムシは種が異なる? ○田中 宏卓・紙谷 聡志(九州大学博物館・愛媛大学)	C201 ハネナシコロロギにおける交尾行動と聴覚器官の有無 谷山 克也(国土館大学)
9:15	A202 日本産アオジウカイ属 <i>Themus</i> (甲虫目ジウカイ科)の分類学的再検討 ○中村 涼 ¹ ・久保田 耕平 ² (東大/農学生命科学 ¹ ・平成国際大/法 ²)	B202 木本樹幹に定住するヤノクチナガオアブラムシの地理的狭域における集団遺伝構造 ○松浦 匠 ^{1,2} ・山本 哲也 ³ ・中村 駿介 ² ・廣田 峻 ^{4,5} ・田路 翼 ⁶ ・中瀬 悠太 ⁷ ・陶山 佳久 ⁴ ・上田 昇平 ¹ ・平井 規央 ¹ ・市野 隆雄 ² (大工大・農 ¹ ・信州大・理 ² ・長崎大・水環 ³ ・東北大・農 ⁴ ・福島大・理工 ⁵ ・日本大・文理 ⁶ ・京芸大・教養 ⁷)	C202 シバズ2化個体群における雌性先熟・雄性先熟の光周期コントロール 田中 一裕(宮城学院女子大学一般教育)
9:30	A203 日本産ナガアリツカシ属 <i>Euplectus</i> (コウチュウ目, ハネカクシ科)の分類と課題 野村 周平(国立科学博物館)	B203 サクラ類にゴール形成する <i>Tuberocephalus</i> 属アブラムシの未記載種と分類学上の課題 ○高岡 尚矢・秋元 信一(北大農・昆虫体系)	C203 クワガタムシ科における <i>Wolbachia</i> の感染例とその系統 張 勝男 ^{3,2} ・張 太雄 ⁴ ・朴 容煥 ^{5,4} ・○久保田 耕平 ^{1,2} (平成国際大学 ¹ ・東京大学 ² ・安徽農業大学 ³ ・江原大学校 ⁴ ・国立山林科学院 ⁵)
9:45	A204 ヒメハネカクシ属 <i>Badura</i> 亜属(コウチュウ目ハネカクシ科)の海岸性種に関する分類学的研究 田作 勇人(北大・農・昆虫体系)	B204 日本産オオイナズマヨコバイ属 <i>Metalimnus</i> (半翅目, ヨコバイ科)の検討 奥寺 繁(北海道教育大学旭川校)	C204 菌えいおよび菌食性がツツジ類の害虫ベニモンアオリンガ(チョウ目: コバガ科)の幼虫の成長に与える影響 角平 龍紀(東京農大・昆虫)
10:00	A205 エゾアリガタハネカクシ <i>Paederus parallelus</i> Weise, 1877(甲虫目ハネカクシ科)の分類学的再検討 ○五井野 響太郎 ¹ ・長太 伸章 ² ・野崎 翼 ¹ ・丸山 宗利 ³ (九大院・生資環・昆虫 ¹ ・国科博 ² ・九大博 ³)	B205 日本産 <i>Amrasca</i> 属(カメムシ目, ヨコバイ科)の分類学的研究 ○上原 友太郎 ¹ ・大原 直通 ² ・紙谷 聡志 ² (九大院・生資環・昆虫 ¹ ・九大院・農・昆虫 ²)	C205 アズキノメイガのオス中脚関節及び腹部の毛束形態の変異と遺伝子 ○田端 純 ^{1,2} ・田中 絵里 ¹ (農業・食品産業技術総合研究機構 ¹ ・筑波大学 ²)
10:15	A206 オオシロアリを寄主とする新規の好白蟻性ハネカクシの発見 ○金尾 太輔 ¹ ・菊池 顕生 ² (山形大 ¹ ・OIST ²)	B206 日本産モンコチビズムシ(カメムシ目チビズムシ科)の分類学的再検討 岩崎 響亮(東京農大・昆虫)	C206 ミツバチ科のオスの精子数および精子長の比較解析 ○安西 七海・林 晋也(福岡大学大学院・行動生物学研究室)
10:30	A207 タイで見つかった興味深い好白蟻性甲虫 ○丸山 宗利 ¹ ・梁 維仁 ² ・関 峻太 ³ ・柿添 翔太郎 ⁴ (九大博 ¹ ・MICRODO Ltd ² ・九大・農・生資環 ³ ・科博 ⁴)	B207 日本産ヨツボシチビナガカメムシ属(カメムシ目: ナガカメムシ上科: ヒョウタンナガカメムシ科)の分類学的研究 ○伴 光哲 ^{1,2} ・相馬 純 ³ ・久末 遊 ⁴ (帯広畜産大学/客員研究員 ¹ ・千葉県立中央博物館/市民研究員 ² ・弘前大学/白神自然環境研究センター ³ ・自然環境研究センター小笠原事務所 ⁴)	C207 好蟻性ハエヤドリクロバチのアリとの相互作用と交尾行動の観察(ハチ目: ハエヤドリクロバチ科) ○河合 諒人 ¹ ・Yoon Seonwoo ² ・Notton David ³ (九大院・生資環・昆虫 ¹ ・Ulsan ATC ² ・Dept. of Nat. Sci., NMCC ³)
10:45	A208 日本列島広域分布種ミヤマクワガタのCOI遺伝子に基づく遺伝的構造 齋川 和宏(立正大学大学院)	B208 半翅目の背面立体構造形成時における収納方法の比較 ○杉浦 幹太・後藤 寛貴(静岡大院創造バイオサイエンス)	C208 ギンケハラボソコマコバチの無性系統はどのように有性系統から遺伝子を受け取るのか? 前藤 薫(神戸大)
11:00	A209 自然選択はルイヨウマダラテントウの成育形質をどのように形作っているのか? ○藤山 直之 ¹ ・Nijhuis Fei ² ・de Jong Peter ² (山形大・理 ¹ ・ワーヘニンゲン大・昆虫 ²)	B209 ツノカメムシ属(半翅目)におけるオス交尾節の伸長したハサミ状突起のアロメトリー ○大田 孝典・高山 あかね・工藤 慎一(鳴門教育大学)	C209 「クジマカシホソハネコバチ」と名付けた <i>Palaeomyrma japonicum</i> の発見以来、久慈の琥珀の中の昆虫化石が研究対象に成ってきた ○城田 安幸 ¹ ・西川 幸宏 ² (医果同源りんご機能研所 ¹ ・京都工繊大 ²)
11:15		B210 The effects of yeast species on the larval growth and maintenance of symbiosis in a longicorn beetle ○芳賀 航・土岐 和多瑠(名古屋大学大学院生命農学研究科)	
11:30		B211 Genetic Structure of Sea Skaters in Japan: With a Focus on Habitat Suitability and Oceanic Dispersal ○朝鍋 遥 ¹ ・村上 翔大 ¹ ・坂本 充 ² ・矢後 勝也 ³ ・井川 輝美 ⁴ ・土畑 重人 ¹ (東京大学大学院総合文化研究科 ¹ ・ミヤジマトンボ協議会 ² ・東京大学総合研究博物館 ³ ・盛岡大学 ⁴)	
11:45		B212 A Comprehensive Study from Genomics to Conservation of Japan National Butterfly ○沈 宗諭 ¹ ・黄 仁磐 ⁴ ・岡村 悠 ⁵ ・徐 垚峰 ² ・吳 立偉 ³ ・矢後 勝也 ¹ (東大・総研博 ¹ ・台湾師範大 ² ・台湾東海大 ³ ・中央研究院 ⁴ ・都立大 ⁵)	

口頭発表 大会3日目 9月15日(月)午前

	A会場	B会場	C会場
9:00	A301 日本産 <i>Aphelonyx</i> 属 (ハチ目: タマバチ科: ナラタマバチ族) の分類学的再検討 ○井手 竜也 ¹ ・和智 伸晃 ² ・阿部 芳久 ³ (国立科博 ¹ ・琉球大 ² ・九州大 ³)	B301 雪の中で暮らす日本産クモガタガガンボ属 <i>Chionea</i> の多様性 (Diptera, Limoniidae) 中村 剛之 (弘前大/白神センター)	C301 石川県白山の衝突板トラップ (FIT) で採集された甲虫類-アリゾカムシ類とコガネムシ類、コメツキダマシ類、ゾウムシ類の比較- ○中田 勝之 ¹ ・野村 周平 ² (石川県白山自然保護センター ¹ ・国立科学博物館 ²)
9:15	A302 日本未記録属 <i>Neodusmetia</i> 属 (膜翅目: トビコバチ科) の発見 ○市川 裕咲 ¹ ・東浦 祥光 ² ・松尾 和典 ³ ・竹松 葉子 ⁴ (九州大院地社 ¹ ・山口農林総技セ ² ・九州大院比文 ³ ・山口大院創成科学 ⁴)	B302 日本産マカリケムシヒキ属 (ハエ目: ムシヒキアブ科) の分類学的研究 ○橋本 賢直 ¹ ・館 卓司 ² (九大院・地社 ¹ ・九大院・比文 ²)	C302 奄美大島でのネパールモンシデムシの捕獲状況 上田 明良 (森林総合研究所北海道支所)
9:30	A303 東アジアにおける森林性アリバチの多様性 (膜翅目: アリバチ科) 岡安 樹瑠也 (北海道大学昆虫体系学研究室)	B303 ベッコウバエ属 <i>Dryomyza</i> (双翅目ベッコウバエ科) の分類 末吉 昌宏 (国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)	C303 北海道におけるガムシ上科4科の甲虫相 下中 淳ノ介 (北大昆虫体系)
9:45	A304 日本・ベトナムの木造建築でみられるセイボウ類 (ハチ目: セイボウ科) ○三田 敏治 ¹ ・Nguyen Lien Thi Phuong ² ・Vu Thanh Trung ³ ・Pham Hong Thai ⁴ (九州大学大学院 ¹ ・IB, VAST ² ・VNMN, VAST ³ ・MISR, VAST ⁴)	B304 ハエ目タマバチ科の多様性研究: 現状と展望 ○徳田 誠 ^{1,2} ・Khamis Elsayed Ayman ^{1,2} (佐賀大学農学部 ¹ ・鹿児島大学大学院連合農学研究科 ²)	C304 生成AIを活用した生物多様性情報データクリーニングの試み ○柿添 翔太郎・太田 藍乃・神保 宇嗣 (国立科学博物館)
10:00	A305 堅果食のゾウムシ上科2種に寄生するヒメフチガシラコユバチ亜科 (ハチ目: コマユバチ科) の分類と生態 ○廣瀬 勇輝 ¹ ・藤江 隼平 ² ・平山 貴美子 ³ (九大院・生資環・昆虫 ¹ ・大阪自然史博 ² ・京府大院・生命環境 ³)	B305 片側だけで機能する把握器-腹板から派生した可動突起の機能解明 廣瀬 朋輝 (北海道大学院昆虫体系学研究室)	C305 昆虫類レッドリスト情報を活用した生物多様性の指標化の試み ○中西 康介 ¹ ・山野 博哉 ^{1,2} (国立環境研究所 ¹ ・東京大学大学院 ²)
10:15	A306 日本産 <i>Lissonota</i> (膜翅目、ヒメバチ科、ウスマルヒメバチ亜科) の多様性 渡辺 恭平 (神奈川県立生命の星・地球博物館)	B306 長崎県周辺地域および東日本に局所分布するニシキイシノミの分子系統地理学的研究 ○鈴木 智也 ¹ ・落島 慶 ¹ ・堀 慎太郎 ¹ ・福山 伊吹 ² ・高田 賢人 ³ ・鈴木 信夫 ⁴ ・東城 幸治 ⁵ (広島修道大 ¹ ・北大 ² ・和歌山県立自然博 ³ ・日本女子体育大 ⁴ ・信州大 ⁵)	C306 自然環境保全基礎調査昆虫類分布調査の実施 ○平松 新一 ¹ ・尾崎 由布子 ¹ ・川元 集太 ¹ ・岸本 年郎 ² ・石塚 新 ³ ・金子 直樹 ³ (環境省生物多様性センター ¹ ・ふじのくに地球環境史ミュージアム ² ・自然環境研究センター ³)
10:30	A307 無翅種が見られる日本産Phygadeuontinae亜科 (膜翅目: ヒメバチ科) 4属の分類学的再検討 大松 勇司 (北海道大学)	B307 エルモンヒラタカゲロウ類 <i>Epeorus latifolium</i> group (カゲロウ目ヒラタカゲロウ科) の分子系統地理と分類学的諸問題 ○高柳 達志 ¹ ・金子 裕明 ² ・石綿 進一 ² ・高村 岳樹 ² (山梨県森林総合研究所 ¹ ・神奈川工科大学 ²)	C307 小笠原固有種オガサワラセセリの自然史と保全 ○矢後 勝也 ¹ ・庄子 恭平 ² ・養原 茂 ¹ ・金子 棟哉 ³ ・和田 慎一郎 ³ (東京大 ¹ ・小笠原環境計画研究所 ² ・環境省 ³)
10:45	A308 チョウの寄生者、日本産 <i>Hoplismenus</i> 属群 (膜翅目ヒメバチ科) の再検討 菊地 波輝 ^{1,2} (豊橋市自然史博物館 ¹ ・都立大・理・生命科学 ²)	B308 エダエラナガレトビケラはなぜ酸性河川に生息できるのか? 生理耐性機構を近縁種との比較から考える 倉西 良一 (神奈川工科大学)	C308 蟹島列島のカメムシ亜目の種多様性 ○嶋本 習介 ^{1,2} ・伴 光哲 ³ ・岸本 年郎 ⁴ ・相馬 純 ⁵ (相模原市立博物館 ¹ ・東京農業大学 ² ・帯広畜産大学 ³ ・ふじのくに地球環境史ミュージアム ⁴ ・弘前大学白神自然環境研究センター ⁵)
11:00	A309 ベトナム産カレバアラリ属 (アリ科: フタフシアリ亜科) の分類学的研究 ○松浦 公平 ¹ ・細石 真吾 ¹ ・Pham Hong Thai ² (九州大 ¹ ・国立ベトナム自然史博物館 ²)	B309 台湾におけるツチゴキブリ属 <i>Margattea</i> (ゴキブリ目: ヒメゴキブリ科) の多様性解明 林 幸希 (都立大・理)	
11:15	A310 熱帯アジア高地でのアリ植物共生アリにみられる形態的停滞と遺伝的分化 細石 真吾 (九大熱研センター)	B310 キスジゴキブリの分類学的再検討 ○富田 陵・江口 克之 (東京都立大学 動物系統分類学研究室)	
11:30	A311 アリ類におけるカスト多型と性多型 伊藤 文紀 (香川大学)	B311 ハラビロカマキリ (カマキリ目カマキリ科) における垂種間関係の再検討 ○田口 綾乃 ¹ ・大島 千幸 ² (CES・生物園 ¹ ・進化生物学研究所 ²)	
11:45	A312 ワーカーの社会的地位が女王との接触パターンに与える影響 ○菊地 友則 ¹ ・恩田 (丸山) 加菜 ¹ ・菅原 研 ² (千葉大学 ¹ ・東北学院大学 ²)	B312 日本産クワフチャテ科Philolarsidae (咀嚼目) の分類学的研究 ○佐々木 終太郎・吉澤 和徳 (北大/農/昆虫体系)	

口頭発表 大会3日目 9月15日(月)午後

	A会場	B会場	C会場
13:00	A313 一形態種で六科の植物種を寄主利用する <i>Dendrocyber</i> 属 (鱗翅目: ホソガ科) の未記載種 ○澤田 昌恭 ¹ ・大島 一正 ^{2,3,4} (北大院・農・昆虫体系 ¹ ・京都府大・院生命環境 ² ・京都府大・新自然史セ ³ ・京都府立植物園 ⁴)	B313 同所的に生息する <i>Holcotetrastichus</i> 属 (膜翅目: ヒメコバチ科) 2種の発生消長の比較 ○山本 淳也 ¹ ・井上 己新 ¹ ・久野 未希 ¹ ・續木 諒 ² ・松尾 和典 ³ ・椎崎 一宏 ² (九大院地社 ¹ ・東洋大 ² ・九大院比文 ³)	
13:15	A314 <i>Metacercops</i> 属 (鱗翅目ホソガ科) の日本からの発見とその特異な潜葉習性: 小笠原諸島固有種の特異性解明に向けて ○瑤寺 裕 ¹ ・大島 一正 ^{1,2,3} (京都府立大・院生命環境 ¹ ・京都府大・新自然史科学創成センター ² ・京都府立植物園 ³)	B314 日本産ヒメカマキリの越冬様式の種間比較: 卵休眠と幼虫休眠の可能性 ○浅井 英毅 ^{1,2} ・後藤 慎介 ² (東京農大・昆虫 ¹ ・大阪公大・院理 ²)	
13:30	A315 西表島のマングローブに多数生息する <i>Dichrocrocis</i> 属の一種 (鱗翅目: ツトガ科: ヒゲナガノメイガ亜科) の種同定と生態的知見 ○和智 仲是 ¹ ・松井 悠樹 ² ・吉安 裕 ³ (琉球大 ¹ ・農研機構 ² ・京都府大 ³)	B315 サツマヒメカマキリ <i>Acromantis satsumensis</i> の越冬齢の変異に関する研究 ○山崎 和久 ¹ ・中峰 空 ² ・長島 聖大 ³ ・中 秀司 ⁴ (流経大 ¹ ・箕面公園昆虫館 ² ・伊丹市昆虫館 ³ ・鳥取大 ⁴)	
13:45	A316 小笠原諸島に分布する <i>Anarsia</i> 属未記載種について (チョウ目: キバガ科) ○河合 雄介 ¹ ・屋宜 禎央 ² ・広渡 俊哉 ³ (九大院・生資環・昆虫 ¹ ・九大院・農・昆虫DX ² ・九大院・農・昆虫 ³)	B316 沖縄産ハラビロカマキリにおける生活史二型化仮説の検証 ○廣田 暎琉 ¹ ・菅原 亮平 ² (岩手連大 ¹ ・弘前大 ²)	
14:00	A317 国内で得られているマルハキバガ科の未記録属について (鱗翅目: キバガ上科) 外村 俊輔 (徳島県立博物館)	B317 九州地方における絶滅危惧種マルコガタノゲンゴロウの生活史および食性 ○福岡 太一 ¹ ・松井 英司 ² ・大庭 伸也 ^{1,3} (長崎大学大学院総合生産科学研究科 ¹ ・熊本水生生物研究所 ² ・長崎大学教育学部 ³)	
14:15	A318 西表島から発見された <i>Ecpatia</i> 属 (チョウ目: ヤガ科) の不明種とその幼虫形態および寄主植物 ○荒井 周 ¹ ・綿引 大祐 ¹ ・和智 仲是 ² (東京農業大学大学院・昆虫学研究室 ¹ ・琉球大学熱帯生物園研究センター・西表研究施設 ²)	B318 新説: オベリスク姿勢は“胸部腹側”からの放熱姿勢 ~サーモグラフィ&翅切除観察から~ 富田 尚道 (元群馬県公立中学校)	
14:30	A319 ブナ種子食者「ブナムシガ」の正体 ○岡 太陽 ¹ ・屋宜 禎央 ² (九大院・生資環・昆虫 ¹ ・九大院・農・昆虫DX ²)	B319 モモズメ幼虫の齢によるカモフラージュ戦術の変化 萩原 絢子 (東京農工大学大学院 動物行動学研究室)	
14:45	A320 翅基構造に基づくチョウの系統推定 ○酒井 恒平 ¹ ・矢後 勝也 ² ・吉澤 和徳 ¹ (北海道大学昆虫体系 ¹ ・東京大学総合研究博物館 ²)	B320 Comparative study of the tracheal system and respiratory adaptations in insects ○Davis Steven ^{1,2} ・Herhold Hollister ² ・DeGrey Samuel ³ ・Grimaldi David ² (東京科学大学 ¹ ・American Museum of Nat. Hist. ² ・University of Idaho ³)	

学生正会員・若手正会員ポスター発表 大会2日目 9月14日(日)

		ホワイエ	
コアタイム 奇数番号 12:00 ~13:00 偶数番号 13:00 ~14:00	PP01 日本産トガリナフシ属における有用な同定形質の探索 山口 陽希 (東京農業大学・昆虫学研究室)	PP16 環境DNAを用いて樹液に集まる昆虫を検出する手法の開発 ○川上 仁 ¹ ・湯浅 拓輝 ¹ ・黒田 裕樹 ² ・一ノ瀬 友博 ² (慶應義塾大学 一ノ瀬友博研究室 ¹ ・慶應義塾大学 環境情報学部 教授 ²)	PP31 ヒゲジロクビナガキバチは共生菌をいつ、どのように獲得するのか? : 蛹室内での羽化成虫の行動に着目して ○高木 隆・梶村 恒 (名古屋大・院・生命農)
	PP02 台湾産 <i>Alexeter</i> 属 (ハチ目: ヒメバチ科) の分類学的再検討 ○陳 玄模 ¹ ・黃 嘉龍 ² ・蕭 旭峰 ¹ (National Taiwan University ¹ ・Minjiang University ²)	PP17 能勢町版レッドリストに向けた直翅類の調査とその後 ○鞍井 希風 ¹ ・藤原 一旭 ¹ ・平井 規央 ³ ・前田 満 ⁴ ・角村 茂 ⁵ ・天満 和久 ¹ (貝塚市立自然遊学館 ¹ ・鳥取大学 ² ・大阪公立大学大学院 ³ ・能勢町文化財保護審議会 ⁴ ・御菓子司 津村屋 ⁵)	PP32 全天球カメラを用いた積雪上のセッケイカワゲラの連続観察 ○赤林 哲也 ¹ ・竹内 望 ² (千葉大学 大学院融合理工学府 ¹ ・千葉大学 大学院理学研究院 ²)
	PP03 <i>Cochlischnogaster spatulata</i> (膜翅目: スズメバチ科: ハラソバチ亜科) の巣の詳細な観察 ○根田 直子 ¹ ・諸岡 歩希 ² (茨城大学理工学研究所 ¹ ・茨城大学基礎自然科学部 ²)	PP18 タケクマバチの花粉資源利用: メスの外部形態・営巣環境との関係 ○吉村 真奈 ¹ ・高橋 大輔 ² (神戸女学院大学大学院 ¹ ・神戸女学院大学 ²)	PP33 非営業性ウスバカゲロウ科5種にみられる不動行動の有無及びその持続時間の比較 ○神宮 彬彦 ¹ ・上田 昇平 ¹ ・平井 紀夫 (大阪公立大学院・農)
	PP04 ギンネムの鞘で生活する <i>Leptophloeus</i> 属同定保留種の一つの分類と生態 ○金子 玲菜 ¹ ・吉田 貴大 ² (東京都立大学/動物系統分類学研究室 ¹ ・愛媛大学ミュージアム ²)	PP19 蚊を誘引する花の構造 ~送粉者と花の形態進化の関係~ 熊谷 穂沙子 (千代田区立九段小学校)	PP34 筑波大学構内における営業性ウスバカゲロウ科昆虫の生息状況について ○田ヶ原 将己 ¹ ・佐藤 幸恵 ² (筑波大学大学院 行動生態学・進化生態学研究室 ¹ ・筑波大・MSC ²)
	PP05 ヒラタクワガタ亜属群における終齢期間、体サイズ、及び外部形態の比較 ○黒田 由佑 ¹ ・村上 一真 ² ・森 直樹 ² ・後藤 寛貴 ¹ (静岡大・後藤研 ¹ ・大阪公立大・創発ソフトウェア研究室 ²)	PP20 ツツソバの花粉媒介における微小昆虫の寄与 ○杉江 萌々華 ^{1,2} ・塚田 森生 ¹ ・中尾 史郎 ² (三重大学 ¹ ・京都府立大学大学院 ²)	PP35 イトウオオアリの営巣習性・生活史と巣内の未交尾脱翅女王の発見について ○千代田 和真 ¹ ・小山 哲史 ^{1,2} (東京農工大学 ¹ ・東京農工大 ²)
	PP06 日本列島におけるセシジアカムカデ <i>Scolopocryptops rubiginosus</i> の分子系統地理学的研究 ○山崎 達矢 ¹ ・東城 幸治 ² ・上木 岳 ^{2,3} (東城研 ¹ ・信州大 ² ・東京大 ³)	PP21 ナガカメネズレバネはどのようにして寄生免疫を回避する? : 寄生免疫評価のための手法開発 ○石川 夏帆 ¹ ・中瀬 悠太 ² ・古川 誠一 ¹ ・藏満 司夢 ¹ (筑波大学 ¹ ・京都芸術大学 ²)	PP36 サカキブチヒメコバチの発育特性および佐賀県における分布拡大と季節消長 ○森理 乃 ¹ ・森口 辰也 ² ・徳田 誠 ^{1,3} (佐賀大 ¹ ・佐賀林試 ² ・鹿児島大 ³)
	PP07 クチゲトゲアヤトビムシ <i>Homidia munda</i> (トビムシ目: アヤトビムシ科) の遺伝的多様性と分子系統地理 ○市村 研至 ¹ ・上木 岳 ^{1,2} ・東城 幸治 ¹ (信州大学 ¹ ・東京大学 ²)	PP22 野外実験によるニホンヤマビル捕食者の検討 鞠子 けやき (東京農業大学 昆虫学研究室)	PP37 国内外来種ケブトラカミキリ <i>Hirticlytus comosus</i> (Matsushita) の茨城県への侵入: 拡大状況及び発生消長 ○江川 和総・石川 夏帆・藏満 司夢 (筑波大)
	PP08 日本列島におけるハサミコムシ類の種多様性と遺伝的多様性に関する新発見 ○小林 世羅 ^{2,1} ・東城 幸治 ² ・上木 岳 ^{2,3} (東城研 ¹ ・信州大 ² ・東京大 ³)	PP23 伊豆諸島におけるスダジイタマバエの大発生は天敵の不在ではなく"不労"によるものか ○宗 祥史 ¹ ・矢野 文士 ¹ ・井上 己新 ² ・松尾 和典 ³ ・和智 伸也 ⁴ ・徳田 誠 ^{1,5} (鹿児島大院・連合農学 ¹ ・九大院地社 ² ・九大院比文 ³ ・琉球大・熱研 ⁴ ・佐賀大・農 ⁵)	PP38 ミツボシツチカメシにおける異なる寄生植物に応じた飛翔筋融解時期の違い ○栗田 桃萌・奥園 元晴・徳田 誠 (佐賀大)
	PP09 ゲノムワイドSNP解析で探る日本産カブトムシ島嶼集団の遺伝構造 ○濱野 友 ¹ ・大庭 伸也 ² ・普天間 ちおり ² ・石田 弘明 ^{1,3} ・中濱 直之 ^{1,3} (兵庫県立大学 ¹ ・長崎大学 ² ・兵庫県立人と自然の博物館 ³)	PP24 植食者の密度はどのようにして制御されるのか: ソラマメヒゲナガアブラムシを用いた検証 ○赤星 裕良 ¹ ・矢野 文士 ² ・徳田 誠 ¹ (佐賀大 ¹ ・鹿児島大 ²)	PP39 産卵後の気温低下時期がエダナナフシの初期胚休眠誘導に与える影響 ○中野 晏志・中村 圭司 (岡山理大)
	PP10 ニワハンミョウの鞘翅の色彩及び斑紋の地理的変異に関する研究 ○岡本 悠哉・海老澤 慎一 (駒大高)	PP25 ヤブニッケイの病変部を巡る昆虫の多様性—2種類の菌えい上の群集比較から探る基質選択の謎— ○曲 雅慧 ¹ ・石川 みのり ² ・末吉 昌宏 ³ ・屋宜 慎央 ⁴ ・徳田 誠 ⁵ ・小林 卓也 ⁶ ・細 将貴 ¹ (早稲田大学 ¹ ・林野庁関東森林管理局伊豆森林管理署 ² ・森林総合研究所森林昆虫研究領域 ³ ・九州大学 ⁴ ・佐賀大学 ⁵ ・森林総合研究所北海道支所 ⁶)	PP40 低温条件がツツシロカイガラムシ(半翅目: マルカイガラムシ科) 奄美個体群の発育に与える影響 ○長田 聖哉・坂巻 祥孝 (鹿児島大学大学院書虫学研究室)
	PP11 近緑な河川棲水生甲虫間の些少な遺伝子流動は種群のmtDNAの遺伝構造に影響を及ぼした?—ヘメドロムシ科水生昆虫ホンメツヤドROMシ <i>Zaitzeviaria gotoi</i> を例に— ○吉田 匠 ¹ ・岡本 聖矢 ² ・林 成多 ³ ・竹中 将起 ² ・東城 幸治 ² (信州大学大学院総合医理工学研究所 ¹ ・信州大学・理・生物 ² ・ホシザキグリーン財団 ³)	PP26 コバネアンベセシジハネカクシの雄における頭幅サイズと繁殖戦略の関係 ○西首 嶺一・栗田 桃萌・奥園 元晴・徳田 誠 (佐賀大・農)	PP41 アバタミベハネカクシ属 <i>Cafius</i> 3種の化学防御物質の同定とその生理活性評価 ○高谷 佑生・森 直樹 (京都大学)
	PP12 分子系統解析から迫る本州ウスリーカマドウマ亜属の種分化と生息環境の関係 ○青柳 祐輝・中濱 直之 (兵庫県立大学)	PP27 フキバタ類の尾角の左右非対称性の検討 ○村田 桃香 ¹ ・藤山 直之 ² (山形大院 ¹ ・山形大 ²)	PP42 昆虫養殖による未利用産物の活用: ミルワームによる鶏糞を用いた飼育の可能性 ○木寺 啓太 ¹ ・服部 充 ¹ ・小林 透 ² ・橋爪 海 ³ ・戸川 大樹 ¹ (長崎大 ¹ ・駒澤大 ² ・株式会社Booon ³)
	PP13 北海道東部の防風林景観が絶滅危惧種ゴマシジミの遺伝的多様性に果たす役割 ○Sakakibara Masamune ¹ ・Hayamizu Masato ² ・Ohwaki Atsushi ³ ・Nakahama Naoyuki ⁴ (兵庫県立大学 ¹ ・道総研・林業試験場 ² ・桜美林大学 ³ ・人と自然の博物館 ⁴)	PP28 ニシキリギリスの雌雄はどのように出会おうのか ○藤原 一旭 ¹ ・田村 匠 ¹ ・中野 亮 ² ・中秀 司 ³ (鳥取大・院持 ¹ ・農研機構 ² ・鳥取大・農 ³)	PP43 カマキリ様前脚を持つミナミカマバエにおける、飼育法の確立と成長過程の観察 ○平石 拓海・坂井 貴臣・朝野 維起 (東京都立大学)
	PP14 <i>Heteropeza</i> 属幼生生殖タマバエの日本における多様性および九州北部の山地における野外生態の解明 ○矢野 文士 ¹ ・宗 祥史 ¹ ・古川 晶啓 ² ・尾崎 一天 ³ ・佐々木 麻衣 ² ・澤島 拓夫 ³ ・Elsayed Ayman ⁴ ・徳田 誠 ¹ (鹿児島大学 ¹ ・佐賀大学 ² ・近畿大学 ³)	PP29 ヒメカマキリの雄はどのようにして交尾におよぶのか? ○長谷川 嵩太 ¹ ・綾野 悠志 ² ・藤原 一旭 ¹ ・大生 唯統 ³ ・土屋 昂晴 ⁴ ・田口 綾乃 ⁵ ・山崎 和久 ⁶ ・中秀 司 ⁷ (鳥取大・院持 ¹ ・鳥取大・連農 ² ・鳥取県鳥取市 ³ ・埼玉県 ⁴ ・CES・生物園 ⁵ ・流通経済大・経済 ⁶ ・鳥取大・農 ⁷)	
	PP15 タマバエ科の"超多様性"は、植食性の進化に伴うニッチ細分化の産物か ○大坪 明日香・日南 瑠・末廣 愛恵・Elsayed Ayman K.・徳田 誠 (佐賀大学農学部)	PP30 トゲオオハリアリにおける女王とワーカーの相互作用が歩行パターンに与える影響 ○立川 琢真 ¹ ・林 叔克 ² ・辻 和希 ³ ・菅原 研 ⁴ ・菊地 友則 ¹ (千葉大学 ¹ ・レディング大学 ² ・琉球大学 ³ ・東北学院大学 ⁴)	

小集会

9月14日(日) 17:00~19:00

WA2：第26回昆虫の季節適応談話会（A会場）

世話人：田中 一裕（宮城学院女子大学）・後藤 慎介（大阪公立大学）

WA201 丸岡 奈津美（宇都宮大・バイオ）「ミジンコにおける競争回避戦略としての休眠とその分子機構」

WA202 〇田 澁 研¹・吉村 英翔^{1,2}・松木 伸浩^{3,4}・舛谷 悠祐^{1,5}（農研機構東北農業研究センター¹・玉川大学²・福島県農業総合センター³・福島県農林水産部⁴・岩手大学⁵）「クモヘリカメムシ最近の話題：被害リスク予測と分布拡大」

WA203 松田 直樹（京都大学）「エンドウヒゲナガアブラムシの世代を超えて時を刻む季節タイマー：その生態的意義とメカニズムを探る」

WB2：日本半翅類学会小集会（B会場）

世話人：伴 光哲

WB201 山田 量崇^{1,2}（兵庫県立大学¹・兵庫県博²）「日本産カメムシ亜目相の全容解明に向けてームクゲカメムシ下目・クビナガカメムシ下目ー」

WB202 三田村 敏正（福島大学）「日本産カメムシ亜目相の全容解明に向けてータイコウチ下目ー」

WB203 渡部 晃平（石川県ふれあい昆虫館）「日本産カメムシ亜目相の全容解明に向けてーアメンボ下目ー」

WC2：昆虫分類学若手懇談会（C会場）

世話人：中村 涼

WC201 山崎 健史^{1,2}（兵庫県立大/自然・環境科学研究所¹・兵庫県立人と自然の博物館²）「東南アジアでのフィールドワークと欧州での博物館標本の調査」

WC202 松村 洋子（ウィーン大/進化生物学部）「機能形態学との出会いと国内外での研究経験」

WC203 大山 望（福井県立大/恐竜学部）「化石昆虫研究のメッカ、パリ国立自然史博物館での研究」

9月15日(月) 17:00~19:00

WA3：昆虫の家族をめぐる進化生態学（A会場）

世話人：鈴木 誠治（北大・農）・工藤 慎一（鳴門教育大）

WA301 工藤 慎一（鳴門教育大）「卵の表現型進化：オーバービュー」

WA302 ○大浦 ひなた¹・小嶺 星心²・大庭 伸也^{1,2}（長崎大院・総合生産科学¹・長崎大・教育²）「コオイムシの卵サイズと幼虫サイズに与える温度の影響」

WA303 正本 大岳（九大・システム生命）「カメムシ類における卵のサイズと形：複数階層で見えてきた変異の実態と適応」

WB3：小笠原マイナー昆虫若手の会（B会場）

世話人：相馬 純

WB301 相馬 純（弘前大学白神自然環境研究センター）「小笠原諸島のマイナー昆虫：若手研究者の需要と最近の事例紹介」

WB302 久末 遊^{1,2}（自然研・小笠原¹・東京都立大・理²）「小笠原村民虫屋の日常：フィールドに住んで取り組む多様性研究」

WB303 朴 鎮亨（九大院・生資環・昆虫）「町中の自販機から絶海の孤島まで～行ってみてわかった小笠原のヒロズコガ～」

WB304 橋爪 拓斗（九大院・生資環・昆虫）「ハネカクシと小笠原諸島：小さな島の大きな意義と向き合い方」

WC3：アザミウマの食生活と性生活（第9回アザミウマ研究会）（C会場）

世話人：中尾 史郎・塘 忠顕

WC301 ○工藤 達実・土畑 重人（東京大学総合文化研究科）「ネギアザミウマにおける異なる配偶システムの共存メカニズム」

WC302 ○中尾 史郎¹・塘 忠顕²・柴田 史音³・喜久村 智子⁴・鎌田 可奈⁵（京都府大院¹・福島大学²・福島大院³・沖縄県⁴・JAひがしみの⁵）「アザミウマ形成ゴールに同居するクダアザミウマの食性」

小中高生ポスター発表（ホワイエ上段）

9月14日（日）コアタイム 12：30～13：30

- PY01 辻 愛珠・山本 篤哉・佐々木 理央・水元 奏良（熊本県立天草高等学校）「発光周期とDNAから考察される天草ゲンジボタルの特異性」
- PY02 井上 碧人・岩前 宏武・春日 暁弥（東京都立立川高等学校）「カシノナガキクイムシの菌嚢の配置について」
- PY03 西澤 ひなた（長野市立広徳中学校）「クワガタの昆虫ゼリーがカビない理由」
- PY04 森岡 正道（吉備中央町立加賀南小学校）「クワガタを助けたい」
- PY05 森岡 正義（岡山理科大学附属中学校）「ピンクバッタよ、どう生きる」
- PY06 森岡 玲圭（ノートルダム清心学園清心女子高等学校）「迫る！ヒメ様の謎ーヒメギスのグルーミング」
- PY07 奥井 彩恵（桜丘高校）「嫌われ者から救世主へ「ゴキブリの秘められた可能性」
- PY08 内山 旬人（茨城県立土浦第二高等学校）「キバネツノトンボの研究 ー生態・生活環の総括と種間比較 ー」
- PY09 熊谷 佐和子（東京都千代田区立九段小学校）「蚊を退治する模型の開発 ～実用化を目指して～」
- PY10 岸上 洪喜・小林 奨真・内田 華蓮（安城農林高等学校）「BSF（アメリカミズアブ幼虫）を用いたトマト残渣処理」
- PY11 塔野岡 達希（つくば開成高等学校）「チャイロスズメバチによる巣の乗っ取りと他種スズメバチへの手懐け行動」
- PY12 國谷 理久・西野 大翔（安田学園高等学校）「ミツバチの栄養交換：触角の動きを介した空腹度の認識」
- PY13 小島 大洋（横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校）「クロオオアリの食生と塩分の関係性について」
- PY14 橋見 優奈（横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校）「アゲハチョウの蛹で何が起きているのか」
- PY15 成田 聖（埼玉県春日部市立桜川小学校）「ナミアゲハの幼虫の色覚についてー前蛹になる時に選ぶ場所から考えたことー」
- PY16 成田 暉（埼玉県春日部市立葛飾中学校）「アブラゼミの幼虫の反射的行動の組み合わせー生存と繁殖への希望ー」
- PY17 佐藤 日向（さいたま市立大宮北中学校）「ナベブタムシの長翅型のなぞ」

PY18 渡邊 智也（沖縄県立コザ高等学校）「ヒメトビサシガメの水辺への適応における収斂進化」

PY19 芥川 涼子・古家野 百桜（清心女子高等学校）「ダンゴムシの痛覚の有無と行動への影響～唐辛子を用いた行動解析～」

PY20 野田 悠太（群馬大学共同教育学部附属小学校）「群馬県の虫いちらん」

PY21 塩田 悠太郎（NPO 法人 フュージョン長池（生きもの展示室）・NPO 法人 ならはらの森 なかの学舎）「八王子市檜原町の昆虫生息状況について」

昆虫じまん（ホワイエ）

9月14日（日）コアタイム 12：30～13：30

展示1 城月 香馬（大泉学園小学校）